



発行：小網代ヨットクラブ
〒238-0225
神奈川県三浦市三崎町小網代 1385-18
編集：広報委員会
編集長：里吉美恵子
連絡先：office@koaziroyc.jp

小網代通信

2022年10月号 VOL-292

今月の内容

・連絡事項	編集委員	1ページ
・「クルージング艇、KFRに参戦」	氏家 理央 (胡桃)	2～3ページ
・「秋のハーバー整備作業(アンカーチェック)写真」	広報委員会	4ページ

連絡事項 (編集委員)

1. < 10月・11月イベント >

- ・ハーバー整備作業を行いました。 10月8日(土)、9日(日)、予備日10日(月・祝) 9時～
作業重点列：4列目と5列目、その他、事前連絡箇所等全体点検の実施
*漁協との合同作業につき、9月中旬ハーバー管理・整備委員会よりメンバーに案内。

漁協およびクラブメンバー有志による作業チームと、該当列各艇の協力者により、ダイバーによる点検と不具合箇所の修繕作業を行いました。前日までの急な寒さと雨模様で危ぶまれましたが、8日朝から日が射し始め初日とともに9日も順調に作業を進めることができました。暫く作業ができなかったこともあり補修作業を10日に予定していましたが、天候が崩れるとの予報を考慮し10日中止とし、その作業を22日(土)23日(日)にすることといたしました。日程を一部変更し、追加することになりました。引き続きご協力いただきますようお願いいたします。

- ・追加作業日 10月22日(土)、23日(日) 9時～
- ・10月KFR 10月16日(日) Eコース(スタート予告 10:25)
- ・第60回 小網代カップレース 11月5日(土)～6日(日)
前夜祭：60回を記念し、前夜祭を開催します。
コロナ禍の状況を判断し安全を期して行います。
日程：11月3日(木・祝) 14:00～16:00
場所：油壺会館 AOra(アオラ) 2階
レースエントリー：エントリーは、10月17日17:00までです。



10月9日現在KYCからは1艇(テティス4)のみとなっています。

2. < 今年の台風とその他危険なこと >

今年の台風の傾向として、非常に強い風と線状降水帯による被害が各地に起こりました。山の多い日本では土砂崩れが発生し、河川や海に土砂や流木が積み上がりました。自然被害を起こさないように地球全体のひとかけらの努力がかもしれませんが、ゴミの減量や持ち帰りに工夫する方向を考えていきたいですね。



【小網代ヨットクラブウェブサイト情報】 URL <http://koaziroyc.jp>

【次回予定 総務委員会 10月17日(月)20:00～ web会議開催予定】

2022. 10月号-1

クルージング艇、KFR に参戦！

胡桃 氏家理央

胡桃はずっとクルージング専門で、レースに出ようとは考えたこともなかった。それがたまたまゲストでレースのベテランが乗ったのをきっかけに、急遽、9月のKFRに出てみようか?!と盛り上がったのが一週間前、その勢いで参加を決めた。結果は着順3位となって、オープン参加で記録には残らなかったが、クルージング艇としては健闘したので、振り返ってご報告する。ウチもたまにはゲームに参加したら面白いかな?と思うクルージング艇の挑戦があれば嬉しい。まず一カ月は酒席の話題独占を請け合う。



なお、みんなレースに夢中だったので、写真が一枚もありません。

クルージングでは常に安全第一、風が強ければ出航せず雨ならオーニングを張って雨宿りで、それを続けていると10年船に乗っていても操船技術の向上が乏しい。クルージングにはクルージングのノウハウと楽しみがあり、それなりの蓄積はもちろんあるが、しかし船を速く走らせる技術は別で、基礎知識として身につけておきたいと考える。レースの技術もある人がクルージングを楽しむなら最高だが、そうでないと船の能力の一部をずっと死蔵するような気がして船に申し訳ない。たまには真面目に船を操る練習をしよう、というのが動機だった。

もっとも、共同オーナーの川島さんは元祖・レーサーだが、年齢もあって、レースの集中力が保てない、との判断でもうレースには出ないと決めてしまっている。胡桃のKFR参戦準備は、だからまず川島さんの了解をもらい、ものの数日でバタバタと進んだ。

スピンもジェネカーもあるが、船内にしまったまま出したことがない。カーボンのスピポールはデッキの置き物となっている。当日乗るメンバー5名のうち、レースの心得があるのは2名のみ、他は私を含めルールも覚束ない。この条件で慣れないことをすればトラブル必至、風がどうあろうとスピンもジェネカーも使わない、メインもジブもいつものセールでチェンジなし、地味に努力と根性で走ろう、と決めた。幸いジブが一番小さいジェノアが着たきり雀で、強風向き。目標は楽しく安全に完走だ。

コースはスタートから赤白ブイー南西ブイー赤白ブイのEコース、風は南か南東なので多分行きはずっと同じタックの上り(片上りと言うらしい)、帰りも同様の下り(片下りと言う?)と予想、比較的単調なのでミスチャンスが少なく、レース初心者の胡桃には有難い。スタートから赤白ブイまでは陸の影響か風は少し東に振れたが、結局風向はほぼ予想通り、ただ台風接近中で風雨が強まるのが心配され、その通りとなった。

まず最初の衝撃は、レース中はメインシート、ジブシートは固定しません、とのレースベテランの一言。カムクリートなどに一切固定しない?シートを手で持ったまま、風に合わせてずっとトリムし続けるのだという。いくら短いEコースでも往復2時間前後はかかる。それを終始人力で?イヤ、それは無理でしょう。イヤイヤ、だから交代しながらやるんです。持ち場を代わるのも面白いから、みんなで経験しましょう。

上りの途中で私がメインシート・トリマーを交代したが、次第に風雨が強まり、全周が水の幕で前が見えない。南西ブイは?見えたら教えて、とヘルムスマンが言うが風速は多分10m前後、いつもの胡桃なら間違いなく2ポンリーフだ。フルセールの艇速は9ノット超、まだ加速しているが雨が顔に痛くて正面を向けない。手で雨を遮ると、やっぱり見えない(ˉ_ˉ);。白く長い波頭の上に、風で削られて吹き飛ばしぶきが作る

空中の川が流れている。風と雨が吠える音が、教会の合唱のように調和して聞こえる。ブローが入りヒールすると、途端に船が横滑りしてスピードが落ちる。「出して出して！DasDasDas」シートを必死に支えて手首が固まり、とっさに緩め方がわからずジワジワしか出せない。船はちやんとこたえるのに私の反応が遅い。くそ！…引くより出す方が難しい。助っ人してもらって、やっと立て直す。

胡桃はもと、メルボルンー大阪ダブルハンドレースのためにニュージーランドで建造した 34ft の外洋艇で、設計は林賢之輔氏、本体は木造だが FRP コーティングしてある。船の外殻が非常に硬く大波に叩かれても撓んだりしない、6.5 トンもある重い船で、強風でも安心して乗ってられる。胡桃の船名は、殻の硬さの連想だ。我々はそれを中古で買ったただけだが、今回のレースは船の基礎体力の恩恵で走ったと思う。

南西ブイを回る頃、突如として前方に青空が見え、水の煙幕が晴れて気がついたが、ここまでに先行艇はただ 2 艇になっていた。最初の赤白ブイを回ったのはスピンの艇団の後、ほぼシングルだったが、追い抜いた、と認識していたのは初めの 2-3 艇で、あとはよくわからない。ただ真面目に走ったら、ゴールしたのが 3 番目だった。軽風や微風なら全く違う結果だったかも知れないが、たまたま胡桃は強風が得意なのだろう。

最後の赤白ブイを回るとまたもや豪雨の急襲、しかもはや雨などどうでも良くなったクルーがてんでに、マークあれだ！本部艇そこだ！と指さし確認。ゴールのホーンが鳴ると、おおー、やったー！と全員でハイタッチだった。レースのベテランは、「ね？面白かったでしょ？」とニッコリ。

強風のさなかでも、いや強風だからなおのことか、船を操るというあくまで繊細な行為と、それにやすやすとこたえる船の反応が全身で感じられ、何だか船が愛おしい。勝った負けたとは別種の、本能で感じる原始的な喜びを味わった気がする。もっと上手になりたいと素直に思う。

なお、セール番号も小網代レーティングもないクルージング艇が KFR に参加するには、JSAF のセール番号と小網代レーティングを取得予定であることが前提となる。胡桃は取得の申請をしたので、オープン参加が認められた。計測はレース後でも構わない。下記をご参考までに記載しておく。

- ・セール番号登録について(JSAF HP)、艇登録料 3,000 円/年:
<https://www.jsaf.or.jp/hp/membership/registship>
- ・小網代レーティング取得のご案内(小網代ヨットクラブ HP)、計測・登録料 6,000 円:
https://koaziroyc.jp/Race/Rating/KoaziroRating_Info_20211229.pdf

(以上)



レース当日のスタート前の“胡桃”
(レース委員会から引用)

秋のハーバー整備作業(アンカーチェック)写真
10月8日(土)・9日(日) 予備日10日(月・祝)の予定で
4列目と5列目の潜水作業で行われました。

8日作業風景

